

令和5年産 カルパーコーティング

JAえちご中越 さんとう地域「カルパー直播コシヒカリ」栽培暦

★ 担い手・法人経営体の作期分散や省力・低コスト栽培を目指した作型です

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月																								
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25																				
出穂前後 日数																										-30					-18					-10					0					+42				
生育 ステ ージ	<p>○種子の準備 (10㎡当たり) コーティング前に通常の浸種～催芽処理を行う (伸ばしすぎない) ・種子粉 (乾粉換算) 2.5kg ・カルパー粉粒剤 16 2.5kg</p> <p>○ほ場の準備 ①本代かきの7日前頃に荒作業を行い、ほ場を均平にする ②代かきは出来るだけ播種の直前 (1～2日前) に行い、初期雑草の発生を抑える ③播種時の土のかたさはヨーグルト状 (乾かし過ぎに注意) 播種前の落水は、播種前日の夕方、または当日の早朝に行う</p> <p>○苗立ち率 目標 80% 苗立ち数 50～80本/㎡ (鳥害等により苗立ち数が30本/㎡程度となっても、植え直しは不要)</p>																																																	
	<p>《<ほ場の均平>> 高低差目標 ±2.5cm 以内 《<硬度に注意>> 種子が出ないよう“やわらかめ”</p> <p>中干しは遅れずに播種後40～45日を目安</p> <p>イネの生育状況確認～イネ:1葉期に一発除草処理</p> <p>無駄な茎をとり過ぎない</p> <p>イネの生育状況確認～イネ:1葉期に一発除草処理</p> <p>草丈</p> <p>葉色</p> <p>最高分け時期 6月30日</p> <p>1回目穂肥 7/25</p> <p>2回目穂肥 8/2</p> <p>出穂期 8月12日</p> <p>収穫期 9月23日～</p>																																																	
水管理	<p>播種後10日間=出芽揃い期 (目標苗立ち数 90%) まで落水管理</p> <p>一時湛水</p> <p>浅水管理</p> <p>中干し～溝切り</p> <p>飽水管理の継続 (土壌水分と地耐力のバランス確保) ⇔ タメ水厳禁</p> <p>出穂後25日以降または用水の最終通水日にかん水を実施!!</p> <p>畦畔に沿って額線状に溝を切って排水を促す → 排水不良田ではさらに対角線状に作溝する</p> <p>《落水出芽》</p>																																																	
栽培 管理 の ポ イ ン ト	<p>Point 1 ~発芽・苗立ちの安定に向けて代かき作業を丁寧に行います~</p> <p>① 仕上げ代かきは播種直前に実施 (播種1～2日前) → 播種時に十分覆土される田面硬度とする</p> <p>② 田面の均平作業はしていねいに → 高低差目標 ±2.5cm以内</p> <p>③ 土壌診断結果に基づく「土づくり肥料の施用」</p>																																																	
	<p>Point 2 ~適期播種・適正管理により初期生育を促します~</p> <p>① 播種量: 2.5kg/10a、苗立ち率: 80%、苗立ち数: 50～80本/㎡ 播種深度: 1cm程度</p> <p>② 播種後10日間は落水状態を保ち出芽を促進 (出芽揃い期: 目標苗立ち数の90%を確保したら入水)</p> <p>③ 播種後10～14日 (イネ:1葉期) に除草剤 (一発処理) を散布</p>																																																	
	<p>Point 3 ~生育状況にあわせた生育調節で根・茎の健全化を図ります~</p> <p>① イネ4葉期前後に3～5日程度、一時落水管理 (田干し) する → 分けつ・発根の促進 → 深水管理に注意</p> <p>② 播種後40～45日 (稲7葉期: 目標穂数の80% = 茎数300本/㎡) を目安に中干しを開始する</p> <p>③ 全ほ場で溝切りを実施 (10条: 3mに1本の間隔)</p>																																																	
<p>Point 4 ~適切な水管理により稲体機能を維持します~</p> <p>① 中干しは、小ヒビが入る程度になったら終了する</p> <p>② 中干し以降は、田面が強く乾くことがないように飽水管理を継続 (強い中干し・タメ水 → 厳禁)</p> <p>③ 完全落水は、出穂後25日以降を目安に実施 (暗渠開放 → 遅く) 異常高温時: 速やかに一時湛水</p>																																																		
<p>Point 5 ~適切な生育診断による穂肥施用 → 品質・収量を確保します~</p> <p>① 1回目穂肥は生育診断～生育状況に応じて、出穂前18～15日に施肥 (粒数確保・倒伏防止)</p> <p>② 2回目穂肥 (出穂前10日) は、確実に施肥して後期栄養を確保</p> <p>③ 急激な葉色低下がみられた場合は追加穂肥を施肥 (過剰施肥は避ける)</p>																																																		
<p>Point 6 ~適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます~</p> <p>① 出穂後の積算気温 (1000℃)、籾の黄化率 (85～90%) を確認 → 適期収穫する (異常高温時は早めの収穫を検討)</p> <p>② 適切な乾燥・調製作業による高品質米仕上げ</p> <p>③ 収穫後は、早めに土づくり資材の投入 + 稲わらすき込み</p>																																																		
<p>《施肥のめやす》 (成分 kg/10a)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>時期</th> <th>N成分</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土づくり</td> <td>収穫後</td> <td>-</td> <td>稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材</td> </tr> <tr> <td>基肥</td> <td>～田植え</td> <td>1.0～1.5</td> <td>地力に応じて</td> </tr> <tr> <td>穂肥1</td> <td>出穂18～15日前</td> <td>1.0</td> <td>遅れずに施肥～粒数確保</td> </tr> <tr> <td>穂肥2</td> <td>出穂10日前</td> <td>1.0～1.5</td> <td>しっかり施肥～登熟向上</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>-</td> <td>3.0～4.0</td> <td>*一発基肥 トータルN: 5.4kg</td> </tr> </tbody> </table>																									区分	時期	N成分	備考	土づくり	収穫後	-	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材	基肥	～田植え	1.0～1.5	地力に応じて	穂肥1	出穂18～15日前	1.0	遅れずに施肥～粒数確保	穂肥2	出穂10日前	1.0～1.5	しっかり施肥～登熟向上	合計	-	3.0～4.0	*一発基肥 トータルN: 5.4kg		
区分	時期	N成分	備考																																															
土づくり	収穫後	-	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材																																															
基肥	～田植え	1.0～1.5	地力に応じて																																															
穂肥1	出穂18～15日前	1.0	遅れずに施肥～粒数確保																																															
穂肥2	出穂10日前	1.0～1.5	しっかり施肥～登熟向上																																															
合計	-	3.0～4.0	*一発基肥 トータルN: 5.4kg																																															
<p>《生育のめやす》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生育ステージ</th> <th>時期</th> <th>草丈 (cm)</th> <th>茎数 (本/㎡)</th> <th>葉色 (SPAD)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目穂肥</td> <td>7/25</td> <td>70</td> <td>450</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>2回目穂肥</td> <td>8/2</td> <td>78</td> <td>410</td> <td rowspan="2">31～33</td> </tr> <tr> <td>出穂期</td> <td>8/12</td> <td>91 (稈長)</td> <td>380 (穂数)</td> </tr> </tbody> </table>																									生育ステージ	時期	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD)	1回目穂肥	7/25	70	450	34	2回目穂肥	8/2	78	410	31～33	出穂期	8/12	91 (稈長)	380 (穂数)							
生育ステージ	時期	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD)																																														
1回目穂肥	7/25	70	450	34																																														
2回目穂肥	8/2	78	410	31～33																																														
出穂期	8/12	91 (稈長)	380 (穂数)																																															
<p>《品質向上・収量確保目標》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>玄米1等級比率</th> <th>90%以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10当たり収量</td> <td>480kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>《収量構成要素》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>収量 (kg/10a)</th> <th>1穂粒数 (粒)</th> <th>穂数 (本/㎡)</th> <th>㎡ 粒数 (百粒)</th> <th>登熟歩合 (%)</th> <th>千粒重 (g)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>480</td> <td>70</td> <td>380</td> <td>266</td> <td>84.0</td> <td>21.5</td> </tr> </tbody> </table>																									玄米1等級比率	90%以上	10当たり収量	480kg	収量 (kg/10a)	1穂粒数 (粒)	穂数 (本/㎡)	㎡ 粒数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	480	70	380	266	84.0	21.5										
玄米1等級比率	90%以上																																																	
10当たり収量	480kg																																																	
収量 (kg/10a)	1穂粒数 (粒)	穂数 (本/㎡)	㎡ 粒数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)																																													
480	70	380	266	84.0	21.5																																													
<p>《品種特性》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>早晚生</th> <th>耐倒伏性</th> <th>葉もち・穂もち</th> <th>紋枯病</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中生</td> <td>弱</td> <td>真性抵抗性を持つ</td> <td>やや弱</td> </tr> </tbody> </table>																									早晚生	耐倒伏性	葉もち・穂もち	紋枯病	中生	弱	真性抵抗性を持つ	やや弱																		
早晚生	耐倒伏性	葉もち・穂もち	紋枯病																																															
中生	弱	真性抵抗性を持つ	やや弱																																															